

オーストラリアの豆類生産見通し (2013年7月29日付け)

パルス・オーストラリア

1. 全体概要

(1) クイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州北部

6月中旬から下旬にかけて数度にわたり降雨があったことで、クイーンズランド州南部及びニューサウスウェールズ州北部で遅れていたデシ種ヒヨコマメの作付けが可能となった。

乾燥の度合いの強いオーストラリア西部では、クイーンズランド州中央部を除く大部分の地域で作付面積が減少し、遅播きの比率が低下していることから、現時点では時期尚早で、生産量の推定は非常に困難であるとしている。今後、平年並みの春の天候が続くとすれば、現時点での推定では、生産量は約60万t、収穫面積は約40万haの見込みである。

多くの地域で最小限度の土壌水分のもとで作付けが行われているので、春の間に十分な降雨があるかどうか、上記の推定値が実現されるかどうかの決め手となるであろう。

(2) 西オーストラリア州

生育期間当初は最近にない絶好の条件のもとで始まったにもかかわらず、6月に記

録的な乾燥が続いたことで、2013年の作柄は多くの地域で平年並みに留まる結果となるであろう。

総降水量が2mmから8mmという値が、西オーストラリア州の北部から中部、南部にかけて記録されている。その後も南部の沿岸地域では、降水量は引き続き平均総降水量を下回っている。州南東部の沿岸地域では、浸水による被害で生産量が低下している。

早魃が広い地域で続いたことで、すべての作物について生育量及び草丈の低下が生じている。ルーピン種は平年に比べて開花が早く、大部分が平年並みの草丈に大きく及ばなかった。

これと対照的に、エスペランス地域ではフィールド・ピー（エンドウ）及びファバ・ビーン（ソラマメ小粒種）が生育条件に恵まれて平年並み以上の作柄となっているが、これは例年になく天候条件が良く、作付けが平年に比べて早かったことによるものである。

大部分の地域で7月中旬以降に広い範囲で降雨があったことから、ある程度の土壌水分が得られた。しかし、現在にいたるまで生育期間中の降水量不足には著しいもの

がある。通常は穀物の稔実に使用されるはずの深部の土壤水分は、すでに枯渇しつつある。平年並みの単位面積当たり収穫量(単収)を達成するには、8月に非常に多量の降雨が必要とされる場所である。

(3) 南オーストラリア州、ビクトリア州及びニューサウスウェールズ州南部

オーストラリア南東部は大部分の地域で6月から7月にかけて適度な降雨に恵まれ、引き続き好条件で2013年冬季を迎えている。土壤水分の推移は最高潮またはそれに近い値に達しており、夏から秋にかけて長期的な乾燥が続いたのちの5月初めの状況とは大きな違いである。生育は順調に進み、春に平年並み以上の降雨を期待しなくても収益率の高い豆類の生産量を達成できるといふ確信が生じている。一部の地域では、湿害を避けるために1週間から2週間の晴天が望まれる。

降水量が少ないか中程度であったいくつかの地域では、作付けの遅れが報告されているが、それでも最適な作付け時期の枠の範囲内に留まっている。一部の地域では霜

により作物の生育が遅れたが、現在は順調に生育している。

豆類の作付面積は、前回の報告からほとんど変化していない。現時点で大幅に価格が上昇しつつあるレンズマメを含む大部分の豆類について、オーストラリア南東部のほとんどの地域で生産者は引き続き自信を示している。このところオーストラリアドルの価値が低下していることから、収穫時期に価格が上昇することを期待する傾向が生じている。

除草剤の残留により、一部の地域で飼料用の引き合いが抑えられ、豆類生産量が低下したが、これは十分な降雨が得られず、プラントバック期間中に残留量が低下しなかったことによるものである。除草剤の残留が豆類の作柄に影響を与えていること及び生育の速さについての報告がおりおりに寄せられた。

2. デシ種ヒヨコマメ地域別生産見通し

(1) クイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州北部

クイーンズランド州中部では引き続き生

表 2013年オーストラリア豆類推定栽培面積 (ha)

州名	ヒヨコマメ		ソラマメ		エンドウ	レンズマメ	ルーピン		合計	対前年比
	デシ種	カブリ種	ファバ	ブロード	ダン種	赤及び緑	スイート	アルバス		
ニューサウスウェールズ	209,000	21,800	28,600	-	50,000	700	25,500	31,700	367,300	82%
ビクトリア	10,000	38,000	58,500	7,000	51,000	79,000	28,000	150	271,650	99%
クイーンズランド	202,000	1,500	-	-	-	-	-	-	203,500	98%
南オーストラリア	1,750	17,650	61,000	19,000	111,500	88,700	55,500	-	355,100	99%
西オーストラリア	5,000	500	4,000	-	38,000	-	273,000	1,000	321,500	86% 91%
合計	427,750	79,450	152,100	26,000	250,500	168,400	382,000	32,850	1,519,050	
対前年比	87%	111%	85%	108%	89%	102%	91%	105%	91%	

育は非常に順調に推移しており、下層土壌水分が非常に良好であり、引き続き降雨に恵まれている。

大部分の地域でascochyta blight病の発生が報告されているが、発生率は低く、生産者は農耕学専門家の支援のもとで充分に対応できている。現時点では、単収は平年並みまたは平年並みをやや上回る見込みである。

クイーンズランド州南部のLeichhardt高速道路より東側の地域の作柄はおおむね非常に良好であるが、56,000haの作付面積の約18%で作付けが遅れたことから、最終的な単収については春の気温条件が多大な影響を及ぼすであろう。

Leichhardt高速道路より西側の地域（推定面積34,000ha）の生育条件は地域によってばらつきがあり、乾燥気味であることから、単収は平年並みを大幅に下回る見込みである。

ニューサウスウェールズ州北部のNewell高速道路の東側の地域及びNewell高速道路の西側約100kmまでの地域では、生育条件は良好であり、大部分の作物について下層土壌水分は良好であり、その後も引き続き降雨に恵まれている。

ニューサウスウェールズ州北部の総作付面積の25%で作付けが遅れたものと推定されており、この地域でも最終的な単収については春の気温条件が多大な影響を及ぼすであろう。現時点の推定では、収穫面積は197,000haで生産量は270,000tの見込みである。

(2) 西オーストラリア州

デシ種ヒヨコマメへの関心は西オーストラリア州において引き続き強いが、2012年の早魃によりやや緩和されている。

2013年のヒヨコマメの作柄はまちまちであって、早い時期の5月に作付けが行われたものは良好な生育状況で草丈も高い。作付けが遅れたものは6月の乾燥の影響を受け、草丈がかなり低い。しかし、春の生育条件が良好で長続きすれば平年並みの生産量となる可能性がある。

2012年の生産量データは改定される見込み

2012年のデシ種ヒヨコマメ生産量の推定値は、現在、改定作業中である。推定値は760,000t前後となる見込みである。改定後の数値は9月の「豆類生産見通し」で発表される。

(3) 南オーストラリア州、ビクトリア州及びニューサウスウェールズ州南部

南オーストラリア州では、ヒヨコマメに対する関心が引き続き高まっている。州南部のヒヨコマメ生産地域では、デシ種及びカブリ種の両方が栽培されている。

デシ種の単収が向上してきているにもかかわらず、南オーストラリア州では、依然としてGenesis090が小粒カブリ種ヒヨコマメの基準となっている。生産者が小粒ヒヨコマメの栽培に携わる場合には、荒利益を比較して、カブリ種の市場状況及び輸送方法の選択肢を明確に把握する必要がある。

カブリ種

粒の大きさが7mmから8mmのカブリ種が、南オーストラリア州及びビクトリア州で栽培される主要な品種である(Genesis090種)。粒がより大きなGenesis Kalkee種(8mmから10mm)のような新しい品種に関心を示す向きもあるが、そういった品種は降水量の条件がもっと良好な地域でしか栽培できない。病害の抑制に特別な配慮が必要であるし、生産者はより大粒のカブリ種による報酬を最大限のものにするために、取引先と様々な取り決めをする必要がある。

昨年の実績から、このような大粒のカブリ種を市場に出すのは難しいことが分かっているため、これらの品種を栽培する場合には、保管場所の必要及び取引時期の判断

に留意する必要がある。

デシ種

デシ種ヒヨコマメへの関心はオーストラリア南東部で強いが、小粒カブリ種との間でヒヨコマメの栽培面積の競合が続いている。

現在、降水量が中程度及びそれ以下の環境に適合する幅広い適応性を持つ、デシ種の3種類の新品種を、生産者が利用できるようになった。それらの品種の実績は良好であるが、2013年いっぱいには種子の増産の段階にある。

南オーストラリア州及びビクトリア州の生産者は、南オーストラリア州の市場ではデシ種ヒヨコマメという選択肢があるという認識がなく、地域内に輸送拠がないと

表 ヒヨコマメ(デシ種)生産状況推定値(2013年)

地域	西部		南部			北部			
州名	西オーストラリア	南オーストラリア	ビクトリア	ニューサウスウェールズ南部	小計	クイーンズランド	ニューサウスウェールズ北部	小計	オーストラリア全体
推定生産量 2013年7月(t)	5,000	2,100	13,000	16,000	31,100	331,000	270,000	601,000	637,100
推定作付面積 2013年7月(ha)	5,000	1,750	10,000	12,000	23,750	202,000	197,000	399,000	427,750
2013年6月からの増減(ha)	0	-550	0	0	-550	4,000	16,000	20,000	19,450
作況指数 1=不良、3=平年並み、5=良	2.1	3.0	3.0	3.0	2.8	2.8	2.6	2.7	2.7

表 ヒヨコマメ(カブリ種)生産状況推定値(2013年)

地域	西部		南部			北部			
州名	西オーストラリア	南オーストラリア	ビクトリア	ニューサウスウェールズ南部	小計	クイーンズランド	ニューサウスウェールズ北部	小計	オーストラリア全体
推定生産量 2013年7月(t)	800	20,000	41,000	3,000	64,000	2,000	25,000	27,000	91,800
推定作付面積 2013年7月(ha)	500	17,650	38,000	2,000	57,650	1,500	19,800	21,300	79,450
2013年6月からの増減(ha)	0	-350	0	0	-350	0	0	0	-350
作況指数 1=不良、3=平年並み、5=良	3.4	3.0	2.5	3.0	2.7	2.9	2.6	2.7	2.7

感じている。

ニューサウスウェールズ州南部ではデシ種ヒヨコマメを主に栽培している面積が一定以上に保たれているが、ニューサウスウェールズ州の中部及び北部では、南部に比べると少ない状態にある。

3. フィールド・ピー（エンドウ）

(1) 南オーストラリア州、ビクトリア州

及びニューサウスウェールズ州南部
カspa（Kaspa）種が、オーストラリア南部及び西部で栽培されるフィールド・ピー（エンドウ）としては主要な品種である。生育期間の短い品種が、フィールド・ピー（エンドウ）の栽培リスクを軽減するのに役立っている。

オーストラリア東部では、バクテリアによる病害が主要な栽培阻害要因となっており、生産者も徐々にそういった病害に対する耐性のある新しい品種を取り入れているが、従来からのダン（Dun）種を栽培している生産者が多い。

飼料用または肥料用にフィールド・ピー（エンドウ）を栽培している例は、ニューサウスウェールズ州南部に散見される。これは、雑草の抑制及び後続の作物のための窒素固定の必要から行われていることである。

このような場合には、雑草の種子が残らないようにすることが最優先であり、エンドウの生産が目的ではない。また、これらの地域での作物として、最終的な生産量を算出するうえでエンドウとして扱われるように

なるか、または干し草として扱われるようになるかは、その年の降雨の状態、霜害の影響及び飼料価格によって決まる。

(2) 西オーストラリア州

エスペランス地域では、フィールド・ピー（エンドウ）の栽培面積はかなり少ないが、これはこの地域ではナタネとの間で栽培面積の競合が激しいからである。現時点では素晴らしい生育条件に恵まれて、フィールド・ピーの作柄は非常に良好であり、高単収が見込まれている。

北部及び中部の地域では、6月から7月初めにかけて例年になく乾燥が続いた結果、単収が平年並みを下回る見込みであり、フィールド・ピー（エンドウ）の生産量が少ない。

4. ファバ・ビーン（ソラマメ小粒種）

(1) 南オーストラリア州、ビクトリア州

及びニューサウスウェールズ州南部
ファバ・ビーンの作付面積は、最近2年間にわたって価格が高く、市場での需要も強かったことから、2012年と同様である。病虫害の抑制及び栽培管理についての生産者の自信も強まっている。収穫時の条件が湿潤で好適でなかった場合には、輸送中及びその後の市場流通過程での豆の品質への悪影響の問題が残っている。

ファバ・ビーンは作物ローテーションを考えるうえで利点のある作物であり、輪作及び連作のいずれにも適している。

新品種のPBA Rana種に対する関心は引

表 フィールド・ピー（エンドウ）生産状況推定値（2013年）

地域	西部		南部			北部			
州名	西オーストラリア	南オーストラリア	ビクトリア	ニューサウスウェールズ南部	小計	クイーンズランド	ニューサウスウェールズ北部	小計	オーストラリア全体
推定生産量 2013年7月 (t)	53,000	151,000	70,000	55,000	276,000		15,000	15,000	344,000
推定作付面積 2013年7月(ha)	38,000	111,500	51,000	41,000	203,500		9,000	9,000	250,500
2013年6月からの増減(ha)	-8,000	-2,000	0	0	-2,000		0	0	-10,000
作況指数 1=不良、3=平年並み、5=良	3.8	3.0	3.0	3.0	3.0		2.4	2.4	3.1

表 ファバ・ビーン（ソラマメ小粒種）生産状況推定値（2013年）

地域	西部		南部			北部			
州名	西オーストラリア	南オーストラリア	ビクトリア	ニューサウスウェールズ南部	小計	クイーンズランド	ニューサウスウェールズ北部	小計	オーストラリア全体
推定生産量 2013年7月 (t)	9,000	99,000	108,000	30,000	237,000		42,000	42,000	288,000
推定作付面積 2013年7月(ha)	4,000	61,000	58,500	11,000	130,500		17,600	17,600	152,100
2013年6月からの増減(ha)	0	0	0	0	0		0	0	0
作況指数 1=不良、3=平年並み、5=良	4.0	3.0	2.6	2.6	2.8		2.8	2.8	2.8

き続いており、粒の大きさが中程度のファバ・ビーン市場への参入が可能となっている。

ニューサウスウェールズ州南部及びビクトリア州北部では、灌漑によって水が供給されるようになるにつれて、灌漑設備によるファバ・ビーン栽培の面積が増加している。

(2) ニューサウスウェールズ州北部

生育期間当初の4月に乾燥が続いたことから、今年の作付面積が大幅に減少しているなかで、ファバ・ビーンについては冬の気温が高めであったことと、その後に降雨に恵まれたことで恩恵を受けた。大部分の圃場で平年並みの単収が見込まれており、現時点での推定では生産量は42,000tとなる見込みである。

5. ブロード・ビーン（ソラマメ大粒種）

南オーストラリア州南東部でのブロード・ビーン栽培面積は昨年と同様となる見込みである。この地域では作付時期の諸条件が理想的だった。カンガルー島が新しい生産地域となっている。

6. レンズマメ

南オーストラリア州及びビクトリア州

最近のレンズマメ価格の上昇により、レンズマメ作付面積は横ばいの状態を保っている。今年の作付時期を控えて、中粒で赤色のレンズマメの売れ行きが鈍かった。

乾燥気味の地域で適期に作付けを行うことができたうえに、平年並みを上回る降水量に恵まれ、高単収と収穫時期までの十分な生育が期待できる生育期間の始まりと

表 ブロード・ビーン（ソラマメ大粒種）生産状況推定値（2013年）

地域	西部		南部			北部			オーストラリア全体
州名	西オーストラリア	南オーストラリア	ビクトリア	ニューサウスウェールズ南部	小計	クイーンズランド	ニューサウスウェールズ北部	小計	
推定生産量 2013年7月 (t)		35,000	13,000		48,000				48,000
推定作付面積 2013年7月(ha)		19,000	7,000		26,000				26,000
2013年6月からの増減(ha)		0	0		0				0
作況指数 1=不良、3=平年並み、5=良		3.0	2.5		2.9				2.9

表 レンズマメ（赤色種及び緑色種）生産状況推定値（2013年）

地域	西部		南部			北部			オーストラリア全体
州名	西オーストラリア	南オーストラリア	ビクトリア	ニューサウスウェールズ南部	小計	クイーンズランド	ニューサウスウェールズ北部	小計	
推定生産量 2013年7月 (t)		128,000	93,000	600	221,600				221,600
推定作付面積 2013年7月(ha)		88,700	79,000	700	168,400				168,400
2013年6月からの増減(ha)		2,000	0	0	2,000				2,000
作況指数 1=不良、3=平年並み、5=良		3.0	3.0	3.0	3.0				3.0

なった。

市場の状況がレンズマメ品種の選定に影響を与える。小粒レンズマメについては、2012年の収穫後に相当な高値がついた。これによって、今年はNipper種及びPBA Herald XT種といった品種の作付面積が大きく増加したが、草丈の高さと成熟までの期間の長さのために、これらの品種の栽培はレンズマメ栽培に比較的適した地域に限られる。PBA Blitz種、PBA Flash種及びPBA Bolt種といった生育期間が比較的短く単収の高い品種が、適期が短く乾燥した地域には適しており広く栽培されている。

適応性の高い新品種が出たことから、生産リスクを低く抑えてレンズマメを栽培できる地域は広がりつつある。さらに、こういった新品種は市場でも知られており、品質面で問題のあるNugget種のような従来品種に代わって栽培されるようになりつつある。

PBA Herald XT種は、レンズマメ栽培に関する雑草抑制の必要を満たす品種であり、雑草の問題が主要な関心を集めている従来からのレンズマメ栽培地域で作付けが増加していくであろう。